

事後評価結果（平成27年度）

担当課：山口県土木建築部道路建設課
 担当課長名：篠原 英道

事業名	地域高規格道路 小郡萩道路 一般国道490号 大田絵堂道路	事業区分	一般国道	事業主体	山口県
起終点	自：山口県美祢市美東町 大田 至：山口県美祢市美東町 絵堂			延長	7.0 km

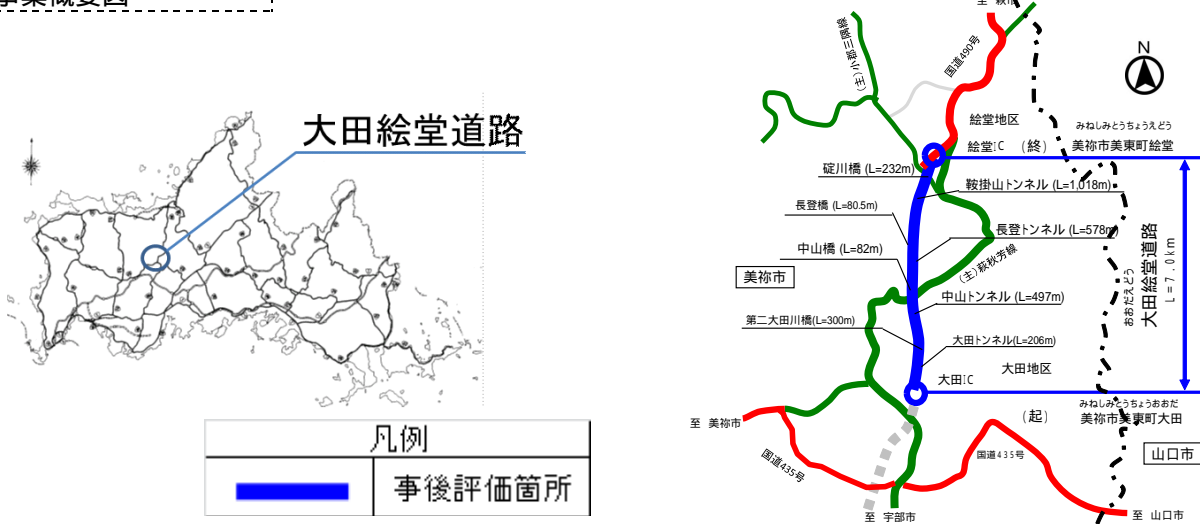
事業概要

一般国道490号大田絵堂道路は、地域高規格道路小郡萩道路の一部を構成し、県央の交通拠点である山口市小郡、山陰の中心都市である萩市を結び、中国縦貫自動車道と連結することにより高速道路ネットワークを形成する延長7.0kmの自動車専用道路である。

事業の目的・必要性

山陰地域と県央部の交流促進、主要都市と広域交通拠点の連携強化及び、観光拠点間のアクセス強化を図る。

事業概要図



事業の 効果 等	事業期間	事業化年度：H 9年度 都市計画決定	用地着手：H 10年度 工事着手：H 10年度	供用年：(当初)H 21年度 / (暫定/完成)：(実績)H 23年度 /	変動	- 倍	
	事業費	計画時 (名目値) 約271億円 / - (暫定/完成) (実質値) / -	実績 (名目値) 約275億円 / - (暫定/完成) (実質値) / -		変動	- 倍	
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	12,000台/日 / -	実績 (暫定/完成)	6,900台/日 / -	変動	- %
	旅行速度向上 (供用前現道 当該路線)	54.0 km/h (供用前年次)H 22年度	67.0 km/h (供用後年次)H 27年度	交通事故減少 (事業中現道 当該路線)	14.5 5.0 件/年 (事業中年次)H 15~H 22年 (供用後年次)H 23~H 24年		
費用対効果分析結果 (再評価)	B / C : 1.4	総費用 : 296億円 (事業費 : 291億円 維持管理費 : 4.9億円)	総便益 : 427億円 (走行時間短縮便益 : 307億円 走行経費減少便益 : 74億円 交通事故減少便益 : 46億円)	基準年 : H 21年			
費用対効果分析結果 (事後)	B / C : 1.5	総費用 : 356億円 (事業費 : 350億円 維持管理費 : 5.7億円)	総便益 : 539億円 (走行時間短縮便益 : 386億円 走行経費減少便益 : 95億円 交通事故減少便益 : 58億円)	基準年 : H 27年			
事業遅延によるコスト増		費用増加額 : - 億円	便益減少額 : - 億円				
事業遅延の理由							

事業の 効果 等	客観的評価指標に対応する事後評価項目 ・当該区間を含む小郡萩道路の真名～絵堂間の整備により、山陰の中心都市である萩市から県内の広域交通拠点へのアクセス性が向上した。 萩市役所 中国縦貫自動車道 供用前 47分 供用後 41分 萩市役所 山口宇部空港 供用前 85分 供用後 79分 萩市役所 J R新山口駅 供用前 71分 供用後 57分 ・山口県の第一次緊急輸送道路に指定され、地域の安全性の向上に寄与している。(一般国道490号)
	その他評価すべきと判断した項目 特になし
事業による 環境の 変化	環境影響評価に対応する項目 山口県環境影響評価等指導要綱に基づき環境影響評価を実施している。 (事業箇所周辺の稀少動植物の生息状況については、工事中に保全対策を実施したことにより、事業着手前と供用後で大きな変化はなかった。)
	その他評価すべきと判断した項目 特になし
事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・本路線を利用した萩市と新山口駅を結ぶ直行バス「スーパーはぎ号」が平成27年1月に運行開始された。 ・萩市にある松下村塾等の5つの資産が、平成27年7月に世界遺産に登録された。 ・平成26年度に先線である絵堂萩道路が新規補助事業化された。	
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 走行時間の短縮や安全で円滑な交通の確保等、一定の事業効果が確認できたことから、再度の事後評価の必要はないと考える。改めて事後評価を実施する必要はない。 また、事業目的にみあった事業効果が確認されたことから、今後の改善措置の必要はない。	
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 特に、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はない。	
特記事項 特になし	

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。